

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和六年十月一日発行 第二二七号

檀信徒の皆様こんにちは。大雨が夏の暑さを和らげ、急に秋を感じるようになりました。今年は彼岸のお中日を過ぎてから彼岸花が咲き、例年になく暑い夏だったと思います。皆さま夏のお疲れなどが出ていませんか？

さて、九月の講習会では七月に引き続き「日本の十三宗（後編）」をお話させていただきますました。

日本の仏教は、中国や朝鮮を経由して伝わり、長い歴史の中で様々な宗派に分かれてきました。その中でも、明治時代に政府によって公認された十三宗は、日本の仏教を代表する宗派として知られています。

十三宗は、それぞれの宗派が異なる教義や修行法、そして仏教観を持っている点で特徴づけられます。これらの宗派は、大きく分けて以下の三つのグループに分類することができます。

南都六宗：法相宗、華嚴宗、律宗など、奈良時代に栄えた宗派。

平安二宗：天台宗、真言宗など、平安時代に栄えた宗派。

鎌倉新仏教：浄土宗、浄土真宗、日蓮宗など、鎌倉時代に生まれた日本独自の仏教。

各宗派の特徴を簡単にまとめると、以下のようになります。

法相宗：唯識論を重視し、人間の心の働きを深く研究する宗派。

華嚴宗：一切のものが相互に関係し合っているという華嚴経の思想を重視する宗派。

律宗：仏教の戒律を重視し、僧侶の規律を厳しく守る宗派。

天台宗：天台大師・智顗が中国で開いた天台宗を最澄が日本に伝えた宗派。

真言宗：真言を唱え、身口意の三密を整えることで即身成仏を得ることを目指す宗派。

融通念仏宗：念仏を唱えて人と人、人と物、すべてのものが融通無碍につながり、この世を浄土へと変えていくことを目指す宗派。

浄土宗：阿彌陀如来の救いを信じ、極楽浄土に生まれることを願う宗派。

浄土真宗：念仏によって阿彌陀如来の救いを確信し、誰でも極楽浄土に生まれることができるという教えを説く宗派。

日蓮宗：法華経を唯一の經典、教義とし、末法の世に生き抜くための教えを説く宗派。

臨済宗：禅宗の一派で、公案を用いて悟りを求める坐禅を重視する宗派。

曹洞宗：禅宗の一派で、黙照禅によって悟りを求める坐禅を重視する宗派。

黄檗宗：禅宗の一派で、隠元禅師が開祖。念仏と座禅を組み合わせた念禅一致が特徴。

時宗：時宗は、一遍上人が開いた念仏宗の一派で、遊行や踊念仏が特徴の宗派。

各宗派が派生した背景には、日本の歴史が深く関係し、それぞれの祖師様が重点を置いた教義により違いが生じているように思われます。また時代と共に仏教が学問的見地から衆生を救済する布教活動へと移行していくのも特徴ではないでしょうか。

紙面の都合上詳細を述べることは出来ません。また勉強不足から特徴などの表現を間違えているかもしれませんがご了承ください。

十一月八日（金曜日）十四時より
檀信徒会館において「法話の会」

八月のお便りで大分市仏教会の会長に就任したことを書かせて頂きました。お祝いと共に忙しくなるのでは？と心配のお声も頂きましたが、全く問題ありません。余り活動できていないのが現状です。そこで年末に法話会を行います。講師の長尾宗学住職は巡廻布教を再開した時に初めて来て下さった布教師様で、実生活に活かるご法話をして下さいます。

日時 十一月十九日（火曜日）十四時より
場所 金剛宝戒寺において
講師 高松市 弘憲寺住職 長尾宗学師

「大分市仏教会歳末助け合い法話会」

振り返りますと、今年は元日に能登半島での大地震から始まりました。先月の大雨も相まって復興がなかなか進みません。月忌でもお願いをしていますが、法話会の後に浄財のご協力をお願い出来れば幸いです。

合掌